

宮崎海岸侵食対策検討委員会 第2回効果検証分科会

宮崎海岸市民談義所の開催状況

国土交通省・宮崎県

平成25年8月12日

目 次

第 1 章 第 19 回宮崎海岸市民談義所の報告	1
第 2 章 第 20 回宮崎海岸市民談義所の報告	3
第 3 章 第 21 回宮崎海岸市民談義所の報告	5

第1章 第19回宮崎海岸市民談義所の報告

開催日：平成24年9月27日（木）

場所：佐土原総合支所2階研修室

参加した市民：28名

議事概要：

1. 第18回宮崎海岸市民談義所以降の状況報告
2. 効果検証に向けた新たな観点について～宮崎海岸侵食対策における景観評価のポイント
3. 突堤建設工事の内容について
4. 養浜工事等の予定

第11回委員会及び第1回効果検証分科会において、「景観」という新たな視点が加わったことから、景観の専門家である柴田委員を交え、景観評価のポイントの紹介及び突堤建設工事内容の説明を主な議題として談義を行った。



写真－1 柴田委員による景観評価のポイント紹介



写真－2 事務局からの説明の様子

◆談義の概要（景観評価のポイント及び突堤建設工事について）

＜宮崎海岸侵食対策における景観評価のポイント：景観の専門家より説明＞

- ・景観はお化粧じゃない
- ・宮崎海岸における景観特性（「らしさ」）の把握と保全
- ・何が一番、風景の「地」になり、目立たないか
- ・コンクリート＝醜悪とは言えない

（第 11 回宮崎海岸侵食対策検討委員会での説明内容）

上記景観評価のポイントを踏まえ、突堤における景観面の対応等を事務局より説明した。

＜突堤建設工事に関する市民からの関連意見＞

- ・突堤工事に関連して、国だけでなく県や市、市民も一緒になって、**海岸利用に関連した道路等の周辺整備に向けた計画**ができないだろうか。
- ・突堤被覆材は、すべてが自然石でできるのだろうかという認識でいた。新たな景観の視点からコンクリートブロックになるとのことだが、**コンクリートと自然石を組み合わせる方法**はできないか。

＜談義のまとめ＞

- ・本日の説明及び談義を踏まえ、次回の第 20 回談義所は、**突堤建設工事の現地見学会**を行った上で、**突堤の景観検討についての談義**を行う。その際、**景観の観点から 2 種類の異なる形状のブロック**（いずれもコンクリート洗い出し加工を実施）を**現地に配置**し、市民に確認してもらう。



写真－ 3 談義の様子

第2章 第20回宮崎海岸市民談義所の報告

開催日：平成25年2月9日（土）

場所：

【突堤現地見学会】突堤建設箇所（一ツ葉有料道路シーガイアIC前面海岸）

【室内談義】佐土原総合支所2階研修室

参加した市民：

【突堤現地見学会】29名

【室内談義】25名

議事概要：

1. 景観検討に係るこれまでの経緯
2. 景観検討の談義
3. 養浜工事等の予定
4. その他（来年度の予定）

第19回談義所に続き、景観の専門家である柴田委員を交え、突堤に使用する被覆ブロックの景観検討を主な議題として、突堤現地見学会を実施し、その後突堤の模型を用いての室内談義を行った。



写真－4 突堤現地見学会の様子



写真－5 突堤の模型を囲んでの談義の様子

◆談義の概要（突堤の景観検討について）

<突堤現地見学会>

- ・現地ではブロック表面の質感や大きさを間近で感じてもらい、現在の宮崎海岸の風景との調和を確認してもらった。
⇒市民からは、「今回の突堤 30m の建設によって砂浜への効果は現れているのか」「工事によって海の水質や生態系に悪影響を与えないように考えて欲しい」などの意見があった。

<突堤の模型を用いた室内談義>

- ・談義に先立ち、景観の専門家である柴田委員より、宮崎海岸侵食対策における景観の保全の必要性や宮崎海岸らしい景観との調和について、模型を使いながら説明があった。
⇒市民からは、「コンクリートで突堤を整備したことは、波の力が強いことを考えるとやむを得ない、むしろベターな選択だと思う」などの意見があった。

<突堤の景観検討に関する談義のまとめ>

- ・現地見学会と模型による景観検討を踏まえ、専門家を交えた談義の結果、突堤基部の被覆ブロック形状は、南面に設置されている10t型の方が景観上望ましいという方向性がまとまった。

◆談義の概要（その他の関連意見）

<突堤の整備についての関連意見>

- ・突堤の設置により大炊田海岸まで砂が付くと言われたが、北から南に砂が流れ、間に石崎川が流れている現状でそのように言われても疑問である。大炊田にも 150m の突堤を作って欲しい。
- ・将来、津波等の自然災害だけに限らず、色々な予期せぬことが起こることも想定しながら進めて欲しい。
- ・宮崎には釣りの愛好家が多いため、突堤が完成した後は、根元の部分にフェンスを設置して人が入れないようにするなどの安全対策を考えているかどうか教えて欲しい。

<養浜及び埋設護岸についての関連意見>

- ・大炊田海岸や住吉海岸から流れた砂が港に溜まっているのであれば、それを活用すれば、楽に養浜ができるのではないかと。また、一ツ瀬川河口の導流堤北側に砂が溜まっているため、その砂を利用して大炊田海岸に養浜を行えば早いのではないかと。
- ・大炊田海岸で予定されている埋設護岸については、消波ブロックを入れてしまうと今までの話し合いがすべてリセットされてしまうため、是非サンドバックを採用できるよう努力して欲しい。
- ・潮に強い植物を核に砂浜を形成すべき。構造物の整備ではなく、自然の砂浜を復元することが第一だということ踏まえて欲しい。

<モニタリングについての関連意見>

- ・施工段階でも市民と連携していくために、市民目線のモニタリングがあっても良いと思う。モニタリングは専門的に行うとしても、その検証材料として市民側のモニタリングは必要であると思うし、それについて談義所で色々話をしていた方が良い。

第3章 第21回宮崎海岸市民談義所の報告

開催日：平成25年7月29日（月）

場所：佐土原総合文化センター研修室

参加した市民：36名

議事概要：

1. 第20回宮崎海岸市民談義所以降の状況報告
2. 本年度着工予定の埋設護岸整備に向けて
3. 談義
4. 養浜工事等の予定
5. 今後の予定

本年度着工予定の埋設護岸について、その検討の経緯や整備イメージを説明し、宮崎海岸への適用に向けた意見やアイデアを聴くことを主な議題として談義を行った。



写真－6 市民連携コーディネータによる解説



写真－7 談義の様子

◆談義の概要（埋設護岸整備に向けて）

<埋設護岸の整備に向けたスケジュールについて>

- ・サンドバックを用いた埋設護岸は、今後どのような手続きを経て着工に至るのか確認したい。
- ・大炊田地区の埋設護岸は、仮に10月工事着工とした場合、工事完了はいつ頃の予定か。同様に、動物園東地区の埋設護岸の工事完了はいつ頃の予定か。

<埋設護岸の諸元・性能・配置等について>

- ・埋設護岸の設置位置をもう少し砂丘側に下げられないかという意見を持っているが、それらについては今後議論の余地があるのか。
- ・設計に用いる10年確率波の統計期間や波高の程度がわからない。埋設護岸がどの程度の波浪に対して性能を確保できるのか、図等にプロットしてわかりやすく示して欲しい。
- ・埋設護岸の延長・幅についても教えて欲しい。

<埋設護岸の効果について>

- ・埋設護岸を整備しても前浜は回復しないため、国土交通省は無駄な事業を行っているのでは。
- ・埋設護岸の整備によって保全しようとしている砂丘の高さは、本当に低くなっているのか。また、5～10年経過すれば砂が堆積して高さが戻ることもあるのではないか。
- ・地元の安全・安心のため早く手を打って欲しい。コンクリートによる護岸整備が最も効果的だと思う。その後、護岸の前面に砂浜を回復させれば良いと思う。
- ・埋設護岸は対症療法であり、抜本的な対策が必要ではないか。砂浜確保のための長期的かつ抜本的な対策として、民地や有料道路の移転等によるセットバックを是非検討して欲しい。
- ・埋設護岸の効果については、どのようなプロセスで検証されるのか。

<埋設護岸の整備に関する談義のまとめ>

- ・安全・安心を早急に確保して欲しいという地元の方々の意見は、これまでの談義所の中でも十分理解されており、本日の談義の中でもそのような意見が出された。
- ・埋設護岸の構造的な部分や施設諸元、位置等について、また効果については専門的に検討される必要があるため、本日の談義所の結果も踏まえつつ、技術分科会及び効果検証分科会で討議されることとなる。
- ・分科会はすべて公開され、一般傍聴も可能であるため、引き続き関心を持ってもらい、ともに事業を見守ってもらえるとありがたい。

1. 技術分科会及び効果検証分科会は、宮崎海岸トライアングルにより市民談義所とリンクしている。
2. 今回の市民談義所の意見について、しっかり議論してもらえよう分科会に報告し、コーディネータが確認する。
3. 分科会での議論の結果は次回第22回談義所で報告を行う。